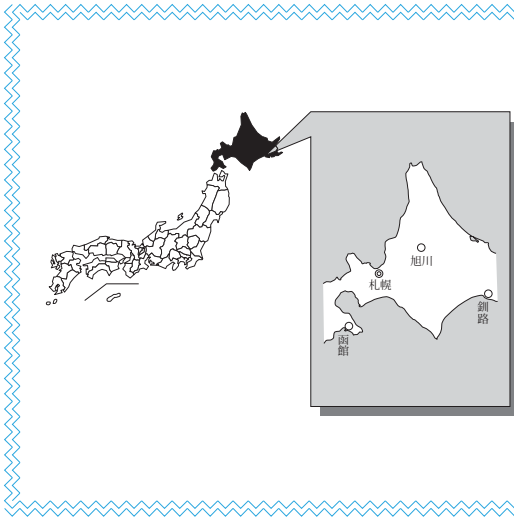


土木紀行

明治から現代にいたる
豊平橋の変遷

一直線に川を横切る機能美 豊平橋

北海道札幌市



豊平橋は石狩川の支流である豊平川に架かる橋で、札幌から千歳・苫小牧方面に向かう幹線国道36号を通す重要な橋と位置付けられています。

現在の豊平川は札幌市内を流れる一本の大きな川ですが、明治の開拓当初は何本もの川に枝分かれし、大雨や雪解けのたびに洪水を繰り返す暴れ川でした。豊平橋は明治時代から近年まで幾度となく大洪水で流され、その都度、架け替えられてきた経緯があります。記録が残っていないため定かではありませんが、その回数は30回ぐらいいなると言われています。

「暴れ川」だった豊平川

豊平川の最初の橋は2連の丸太を並べただけの粗末な橋で、札幌開府直後の1871（明治4）年に架けられました。それ以降、今日までの140年間の間に、30回ぐらいいなと及ぶ架け替えが行われていると言われています。

1875（明治8）年には、アメリカ人技師ホルトの設計による「洋式木造トラス」橋が架けられました。この橋は外国の建築技術と日本の伝統的な木工技術が結びついた工法が用いられ、加えて弓形の木造アーチで補強された非常に珍しい型式でした。アメリカの大鉄道建設期の最新の土木技術を駆使したものでしたが、その橋も1年半後の大洪水によって流されてしまいました。

また、1898（明治31）年には、道庁技師・岡崎



写真一 昭和41年に完成した現在の豊平橋

文吉の設計による道内初めての鉄橋が架けられました。この橋は橋長64.8mのうち36.6m部分が錬鉄製の「プラット・トラス」として架設されましたが、残りの27.4mは依然として木造「ハウ・トラス」でした。この橋は10年以上もちこたえましたが、1919（明治42）年の洪水で流されてしまいました。

流失に終止符を打った三連アーチ橋

「今度こそ流されない永久橋を」という住民の悲願により、3年の歳月をかけて1924（大正13）年に完成したのが旧豊平橋でした。技師・山口敬助と技手・高橋勝衛によって設計された橋長120.7m、幅員18.29mのトラス・リブを有する「ブレスト・リブ・タイド・アーチ」と呼ばれ

る型式で、当時の最新の技術によって架設されました。

同年8月の竣工式には当時の内務大臣若槻礼次郎までが列席、6万人もの見物客が訪れ、花電車が街を走り、夜には数百発の花火が打ち上げられるなど、祝賀ムードは最高潮に盛り上がりました。

アーチ三連の並列する躍動的なデザインと、アーチ・リブの上・下弦材の描く輪郭のコントラストが多くの札幌市民を魅了しました。街並みと川の流れ、そしてはるか藻岩の山並みに映える鉄のアーチの曲線美。さらに、ヨーロッパの城門のようなオベリスク風の尖塔が、夕もやにかすむ灯柱とともに豊かな情緒を醸し出しました。また、みかげ石でできた重厚感あふれる橋脚は、札幌の街並とも見事に調和しました。

この橋はこれまでの橋と異なり長く持ちこたえただけでなく、三連アーチの優雅な姿から、旭川の旭橋、釧路の幣舞橋とともに北海道の三大名橋と称されました。

自動車需要に応える機能美の橋

戦後、自動車が普及すると、札幌では道路の拡張が実施されましたが、橋の幅は広げようがなく、老朽化が進んだ1963（昭和38）年8月には新たな橋の架設が決定されました。工事期間中の3年間、交通量をどうさばくかが一番の問題でしたが、仮橋を設けることで対処しました。仮橋が架けられた後、アーチ型の旧豊平橋は解体され、新しい豊平橋は橋梁技術の粋を集め、1年4カ月の短期間で竣工しました。

それが現在の豊平橋ですが、旧豊平橋と異なり、存在を特別意識させないすっきりした意匠を取り入れています。全長132mの幅27mでスマートな橋桁が一直線に川を横切る直線主体のデザインで、近代的な美しさが特長となっています。また、旧豊平橋に使われていた「みかげ石」を再利用するなど、高度な技術や機能性のほか細部にまで心配りした橋となっています。

1966（昭和41）年10月の竣工式には、渋みがか



写真一 建設中の三連アーチ橋



写真二 大正13年に完成した三連アーチ橋



写真三 豊平橋仮橋架設工事（昭和39年12月）

ったサーモンピンクに塗られた橋体が青空にくっきりと浮かび上がり、その姿をひと目見ようと約2万人の人々が訪れました。

まるで道路の延長のような機能美とともに生まれ変わった現豊平橋は、車社会と設計技術の進歩を見事に象徴しているかのようです。これが現在ある豊平橋です。